

## 言語学

注意:外国人受験者(日本の高校を卒業した者を除く)に限り,英語で解答することも可能です。

(1)「サセ」を用いた日本語の使役構文の分類を最低1つ取り上げて説明し,そのように分類することの意義について自分の考えを述べなさい。

(2) 国際音声字母(IPA)の子音の表について次の問いに答えなさい。

(a) 国際音声字母(IPA)の子音の表の一行目には「調音点」に着目した子音の名称が並んでいる。その名称を全て挙げなさい。

(b) (a)で挙げた名称のうち,あるものはその他の名称と比べて名付けの方法が大きく異なっている。その名称を具体的に挙げた上で,どのような点で異なるかを説明しなさい。

(3) 次の設問(a)(b)に答えなさい(語形の表記はIPAに拠る)。

(a) 例1から9は,言語Aにおける名詞と,それを後部要素とする複合語の対である。これらに見られる音韻の交替を観察して記述しなさい。さらにその交替を,弁別的素性(distinctive feature)または自然類(natural class)によって一般化しなさい。なおrの<sub>h</sub>は無声化を表す。

- |    |                                    |   |
|----|------------------------------------|---|
| 1. | t <sup>h</sup> om「脂肪」              | ç <sup>h</sup> o r <sub>h</sub> om「魚の脂肪」                            |
| 2. | ç <sup>h</sup> o「魚」                | liyi so「鮭」  |
| 3. | p <sup>h</sup> ɨx「スープ」             | ç <sup>h</sup> o v <sup>h</sup> ɨx「魚のスープ」                           |
| 4. | kujva「指輪」                          | toto yujva「銀の指輪」  |
| 5. | ciy <sub>ɾ</sub> 「木」               | qoj zi <sub>ɾ</sub> 「カラマツ」  |
| 6. | çif「足跡」                            | p <sup>h</sup> itik zif「父の足跡」                                       |
| 7. | tif「家」                             | galik rif「ガリク(人名)の家」  |
| 8. | p <sup>h</sup> oqi「浮袋」             | mikik foqi「ウグイの浮袋」  |
| 9. | ç <sup>h</sup> ɨj <sub>ɾ</sub> 「草」 | k <sup>h</sup> e <sub>ɾ</sub> q s <sub>ɾ</sub> ɨj <sub>ɾ</sub> 「海藻」 |

(b) 例10から14は,この言語における動詞と,その動詞で終わる動詞句である。これらに見られる音韻の交替を観察して記述し,その交替を弁別的素性(distinctive feature)または自然類(natural class)によって一般化しなさい。

- |     |                      |   |
|-----|----------------------|---|
| 10. | xu「殺す」               | ç <sup>h</sup> xif k <sup>h</sup> u「熊を殺す」         |
| 11. | fi「住む」               | vo ɲaq <sub>ɾ</sub> p <sup>h</sup> i「村に住む」        |
| 12. | r <sub>ɾ</sub> u「辿る」 | p <sup>h</sup> itik zif t <sup>h</sup> u「父の足跡を辿る」 |
| 13. | ra「飲む」               | ç <sup>h</sup> aɣ ta「水を飲む」                        |
| 14. | za「打つ」               | qan d <sub>ʒ</sub> a「犬を打つ」                        |

(4) 下に挙げる2つの表は、ある膠着的な言語における「見る」という動詞の過去形の活用表の一部である。この言語では主語と目的語それぞれに一致する接辞が動詞に付加される。この活用表のデータを分析して、設問(a)(b)(c)に答えなさい。表の見方およびデータに関する説明は次の通りである。

- ・記号“—”は、該当する語形が存在しないことを表す(解答に際してはこの空欄を無視してよい)。
- ・「S」の横一行には主語の人称と数を記載してある。“1”、“2”、“3”は人称を、“sg”は「単数」を、“pl”は「複数」を表す。
- ・「O」の縦一列には目的語の人称を記載してある。
- ・weptaは「見る」という動詞の過去語幹である。

(a) 表のデータに現れる各々の接辞が何を表しているかを簡潔に説明しなさい。

(b) この言語の動詞がどのような内部構造を有するか(どの形態素がどの順序で現れるか)を、データから分かる範囲で記述しなさい。

(c) 上の(a)(b)の分析に基づいて、表には含まれていないbo-wepta-zoという語形の意味を推測して答えなさい。

O \ S	1sg	2sg	3sg
1sg	wepta-zo-ma	wepta-s-ti	wepta-s
2sg	wepta-rak-ma	wepta-zo-ti	wepta-rak
3sg	wepta-ge-ma	wepta-ge-ti	wepta-ge
1pl	—	wepta-sor-ti	wepta-sor
2pl	wepta-raŋa-ma	—	wepta-raŋa
3pl	wepta-gelo-ma	wepta-gelo-ti	wepta-gelo

O \ S	1pl	2pl	3pl
1sg	—	bo-wepta-s-qos	bo-wepta-s
2sg	bo-wepta-rak-nos	—	bo-wepta-rak
3sg	bo-wepta-ge-nos	bo-wepta-ge-qos	bo-wepta-ge
1pl	bo-wepta-zo-nos	bo-wepta-sor-qos	bo-wepta-sor
2pl	bo-wepta-raŋa-nos	bo-wepta-zo-qos	bo-wepta-raŋa
3pl	bo-wepta-gelo-nos	bo-wepta-gelo-qos	bo-wepta-gelo

(5) 以下の言語学用語を，例を挙げつつ簡潔に説明しなさい。

- (a) 法助動詞 (modal auxiliary)
- (b) 言語の系統樹モデル (tree model of language diversification)
- (c) 他動性 (transitivity)
- (d) 開いたクラスと閉じたクラス (open and closed classes)

【以上】